

CAPNA

キャプナニュースレター61号

ここ数年、マスメディアでの子どもの虐待事件の扱いは次第に小さくなっています。日常的な出来事と受けとめられるようになったのでしょう。それでも子どもの虐待死亡事例数は年間140件近くあり、CAPNAが死亡事例の実数調査を始めたときと変わっていません。政権が交代し、さまざまな不安を抱えつつも政治が身近になりました。これからもCAPNAを中心として、小さい人の声なき声を聞き取れる仲間を増やし、政治に反映させていきましょう。

Vol. 61

河村名古屋市長とお会いしました

監事 岩城正光

9月8日、名古屋市長の河村たかしさんと名古屋市役所で会談しました。私（岩城）と上野美子さんの二人でお会いしました。河村市長はCAPNAの会員で、CAPNAのバザーなどにも顔を出してくださっていました。私は気楽に「早く総理になってよ」と応援したことを覚えています。

7月22日にも木村剛理事のはからいで、CAPNAとしては名古屋市の幹部と懇談会を開催し、家庭支援事業などの申し入れをしています。



市長に私が会ったのは、悲しい事件が相次いでいるからです。昨年4月に東区で、流産した嬰兒の遺体を母親が小学生娘に手伝わしてトイレに流すという事件がありました。港区では、ことし3月と7月に虐待により、1歳9ヶ月の女兒と4歳9ヶ月の男児が亡くなっています。

こうした事件の予防と検証に積極的に取り組んでもらうとともに、CAPNAの目指す家庭支援・子育て支援を市長に強く訴えようと思いました。河村市長は「地域委員会」を新設しようと奮闘している最中です。私は、地域的な虐待防止の取り組みとして、学校区単位での「子どもSOS受信システム」を築き、担当支援者として子どもの虐待対策員を民間から採用して地域ネットワークを構築することを訴えました。

河村市長も地域委員会に虐待防止の視点を入れることに「わが意を得たり」の様子でした。新しい政治の流れが、子どもたち、若い親たちにやさしいものであることを願います。

ご寄付 皆様からご寄付をいただきました。心より御礼申し上げます。

(2009.4.1～8.31分、順不同・敬称略)

- 【個人】 青山康代、二橋淑恵、内藤静雄、服部恵子、矢満田篤二、澤田京子、野田みどり、上村順次、養島朝子、服部真子、坪井絹美、前島美津枝、柴田美智子、渡辺弘子、隈元真理子、辻克美、井上光子、水野裕美子、渡辺栄子、塩出澄子、塚崎真澄、前島美津枝、中嶋エリ、吉岡智子、石田金司、西村清美、久川優貴子、田辺晴子、田中文代、中川ひで子、牧野智子、伊藤芳子、山本敦子、岡田尚子、加藤亜美、神谷真紀子、梅津大樹、白石淑江、村田あやみ、野田恭子、市村五月、木澤和子、渡辺康子 他匿名1名
- 【団体】 (株)アイトー、日本アブソリュートヒーリング協会、パブリックリソースセンター、名城ローターアクトクラブ、愛知県弁護士会、坪井印刷、日本アムウェイ合同会社、愛知県遊技業協同組合、国際ソロプチミスト名古屋、
- 【レゾナ募金】 子育て支援グループひまわり、寺本雄二、加藤愛子、山下裕子、小澤悟 ACCJ ウオーカソン会場にて、他匿名4名

CAPNA ニュースレター 61号 (隔月刊 45号)
2009年10月1日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち
事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-404 TEL.052-232-2880 FAX.052-232-2882
印刷 社会福祉法人名古屋ライトハウス光和寮

新理事長に高橋昌久氏



5月の本年度CAPNA総会で、執行部の改選が承認され、勇退した菱田理事長に代わって、新理事長に高橋正久（愛知淑徳大学非常勤講師・医師）が就任しました。CAPNA設立から14年、4代目の理事長です。

紙上を借りてごあいさつさせていただきます。

本年5月の総会で新理事長にご推挙頂きました高橋です。大変光栄に存じておりますとともに、その責の重さを感じております。

診察室で子どもから虐待をされていることを告げられ、何をどうしたらいいのかわからず途方にくれてCAPNAに電話をした日から、10年の月日がたちました。この間、大変微力ではありますが、CAPNA 会員・理事として、会員、関係各方面の方々のご協力を頂きながら、精一杯頑張ってきました。

総会では、以下のような今年度の活動計画をお話し、ご承認をいただきました。

CAPNA2009年度 事業計画

「どこまで跳ぶか 身の丈にあった活動、伸ばすための充電」

① 継続事業→5本柱をさらに太く強く！

これまでの活動の主である電話相談、危機介入、調査研究、社会啓発、援助・予防に重点を置き、予算とマンパワーをしっかりと把握した上で助走・踏み切り・着地・評価をし、個々の事業できちんとまとめをします。

② 新規事業→今後のCAPNAの動力源。まず提案を、議論を！

予算・マンパワーの少ない中、闇雲に助走路に飛び出すことのないよう、ニーズを探り、予算を捻出する方法を考え、賛同者を集めます。充電期間の充実がその後の跳躍を大きく実りあるものにします。

補足しますと、これからのCAPNAに必要なものはいわゆる「非営利組織の決算書」だと思います。継続事業にせよ、新規事業にせよ、CAPNAにはまだまだ独自に掲げ歩いて出てくるミッションには豊富なものがあるでしょう。けれど、支援者（会員さんや様々な事業の委託先）から託された資源を効率的に使用したか、続けて活動していくための財務的基盤は大丈夫か、甘えや自己満足に陥ってはいないか、受益者や、広く社会に対して

CAPNAは有効に働いたのかなどの判断には、いわゆる財務的決算書と、独自に掲げたミッションを達成した成果で表現されるべき（数字だけではない）非営利組織の決算書がどうしても必要になります。

活動報告書もその一部ではあるでしょうから、まず、報告書の作成はしっかりやっつけていきたいと思えます。ただ、本来決算書は、その決算が出るまでの道程を予算の段階で描いておくことが必要です。

「どこまで跳ぶか 身の丈にあった活動、伸ばすための充電」という言葉にこめた思いは、この「非営利組織の決算書」を書くことを始めよう、そのためにはまず身の丈にあった活動の部分だけでも思い描いてゴールを予測してみようということです。そして、行ったことの報告だけではなく、どのくらい行えたから、今後はどのくらい行えるのかなどを把握する力もCAPNAの持続可能性という点でこの先重要なことでしょう。

今後は、歴代の祖父江・岩城・菱田各理事長が引かれました大変素晴らしい路線を十分に継承しながら、CAPNAの足腰を強くするために、これらのことに力を少し入れていきたいと思っています。

2009年9月吉日

*（参考図書：非営利組織のマネジメント 島田恒 東洋経済新報社）

・ ・ ・ CAPNAのあゆみ ・ ・ ・

- 1995年 設立 代表に祖父江文宏氏 週2日の電話相談を開始
- 96年 電話相談員養成講座スタート
- 97年 CAPNA弁護士団設立 新事務所開設 キャプナ出版設立 ホットラインを全平日に拡充
- 98年 「見えなかった死—子ども虐待データブック」(キャプナ出版)発行
- 99年 祖父江代表が衆議院特別委員会で児童虐待と施設養護の現状を訴える
ホットライン2回線に増設 名古屋弁護士会(現・愛知県弁護士会)人権賞を受賞
- 2000年 日本子どもの虐待防止研究会・あいち大会を開催
愛知県から特定非営利活動法人として認証。祖父江代表が初代理事長に就任
- 01年 朝日新聞の朝日社会福祉賞を受賞
- 02年 祖父江理事長死去 岩城正光新理事長が就任
- 03年 愛知県・名古屋市と協力の協定
- 04年 子どもの虐待防止民間ネットワーク(全国組織)の立ち上げに尽力
- 05年 愛・地球博の「地球市民村」でバビリオン「子どもと話そう館」を運営
- 06年 愛知県、名古屋市からの委託事業、協働事業が活発に
- 07年 岩城理事長が勇退。菱田理・新理事長が就任
- 08年 愛知県児童総合センター委託「子育てフェスタ2008」を開催
- 09年 高橋昌久・新理事長が就任